



LCAD_QS_20091215_1)

Linux Connector for ActiveDirectory クイックスタートガイド

製作著作

© 2009 Turbolinux, Inc. All rights reserved.

本書の一部、または全部を著作権所有者の許諾なしに、商用目的のために複製、配布することはできません。

Turbolinux、ターボリナックスの名称およびロゴはターボリナックス株式会社の商標または登録商標です。Linux は Linus Torvalds 氏の米国および他の国における商標です。UNIX は The Open Group の米国および他の国における登録商標です。Red Hat、および RPM は Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。X Window System は X Consortium, Inc. の商標です。Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本ガイドでは、© ® ™ の表示を省略しています。ご了承ください。

改訂履歴

LCAD_QS_20090427_1	初版	2009/04/27
LCAD_QS_20090520_1	ライセンスファイル適用に関する記述を追加しました。	2009/05/20
LCAD_QS_20091215_1	ActiveDirectory に複数ドメインコントローラが存在する場合の設定について補足しました。	2009/12/15

目次

第 1 章 はじめに.....	1
第 2 章 インストールの前に.....	3
2.1 利用環境の準備.....	3
2.2 ソフトウェアの確認.....	3
2.3 設定に必要な情報の確認.....	4
第 3 章 Turbo ID AIO 管理コンソール.....	5
3.1 概要.....	5
3.2 Turbo ID AIO 管理コンソールのインストール.....	5
3.2.1 起動と初期設定.....	7
第 4 章 Linux Connector for Active Directory.....	12
4.1 インストールの準備.....	12
4.1.1 追加パッケージのインストール.....	12
4.1.2 システム時刻の確認と同期.....	12
4.2 インストール.....	13
4.3 設定ファイルの編集.....	14
4.4 シリアル登録.....	15
4.4.1 adjoin_cli コマンドによる登録.....	15
4.4.2 ライセンスファイルの適用.....	15
4.5 ドメインへ JOIN.....	16
4.6 サービスの起動と設定.....	16
4.7 ログイン確認.....	17

第1章 はじめに

本ガイドは、Linux Connector for Active Directory の使用を開始するために必要な、シリアル登録、インストール、最小限の設定手順を解説しています。Linux クライアントが ActiveDirectory のドメインへ JOIN し、Windows アカウントを使用して Linux クライアントからログインするまでのシンプルな設定を解説します。

インストールを始める際にまずご一読ください。

「Linux Connector for Active Directory ユーザーガイド」では、システム管理について詳細を解説していません。合わせてご確認ください。

本ガイドの表記について

本ガイドでの表記方法を以下に示します。

キー

キーは、次のように[]で表記します。

例) 入力したコマンドを実行するには、[Enter]キーを押します。

複数キーの組み合わせは、次のように表記します。

例) コンソール、またはグラフィカルログイン画面に戻るには、[Ctrl]+[Alt]+[BackSpace]キーを押します。

入力する文字列

ユーザーが入力する文字列は、次のように太字で表記します。

例) テキストモードでインストール作業を進めるには、boot: プロンプトで **text** と入力し[Enter]キーを押します。

置き換える文字列

入力の際、ユーザーが置き換える必要のある文字列は、次のように斜体で表記します。

例) *filename* は、実際のファイル名に置き換えます。

コンソールの出力

コンソール上に出力されるコマンドの実行結果やファイルの内容は、次のように表記します。

例) ls コマンドを実行して ディレクトリの内容を確認します。

```
$ ls -l /home/turbo
合計 4
-rw-r--r--    1 turbo    turbo              0  2月 22 14:20 sample.txt
drwxr-xr-x    2 turbo    turbo            4096  2月 22 14:18 sample_dir/
```

プロンプトの表示

本ガイドでは、コマンドプロンプトを、#(スーパーユーザー) と \$(一般ユーザー) のみで表記します。また、# で表記されるコマンドは、スーパーユーザーのみ実行可能です。

コラム

特に注意いただく点、強調したい点として記載するコラムには以下のアイコンを使用しています。



知っていると便利な事項を示します。



ご注意ください事項や最も重要度の高いコラムを示します。

第2章 インストールの前に

2.1 利用環境の準備

次の利用環境を準備してください。

● Linux コンピュータ

利用環境は以下ディストリビューションです。いずれかインストールされたコンピュータを準備してください。

Turbolinux 11Server 32/64 bit

Turbolinux Client 2008

RHEL 5 32/64 bit

CentOS 5 32/64 bit

● Active Directory の構築が完了した Windows サーバー

Windows Server 2003 スタANDARD/エンタープライズ SP1 または SP2

Windows Server 2008 STANDARD/エンタープライズ



ActiveDirectory のレルム名(ドメイン名)に " " (アンダースコア) を含む場合、Linux Connector for Active Directory の Linux クライアントが参加 (Join) する際、正常に DNS への登録が行われません。レルム名には、"_" (アンダースコア) を含めないようにしてください。

● Windows 管理端末

Turbo ID AIO 管理コンソールをインストールする管理用のクライアントです。Active Directory の動作する Windows サーバーで兼用することも可能です。



Turbo ID AIO 管理コンソールを動作させるには Microsoft .NET Framework Version 2.0 が必要です。あらかじめインストールを完了しておいてください。

以下よりダウンロードが可能です。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=0856each-4362-4b0d-8edd-aab15c5e04f5&displaylang=en>

2.2 ソフトウェアの確認

Linux Connector for Active Directory の CD-ROM には以下のソフトウェアが含まれています。環境ごとにご利用いただくソフトウェアが異なりますのであらかじめ確認してください。

インストール対象 PC		パス
Windows 管理端末 ※Windows サーバー兼用可 (「」参照)		Win32/turboIDAiOSetup.zip
Linux コンピュータ (「」参照)	Turbolinux Client 2008	TLC2008/turboadconnector-1.0.0-2.i586.rpm TLC2008/turboadconnector-gp-1.0.0-2.i586.rpm TLC2008/turboadconnector-netlogon-1.0.0-2.i586.rpm
	Turbolinux 11 Server 32bit	TL11S/x86_32/turboadconnector-1.0.0-2.i586.rpm

		TL11S/x86_32/turboadconnector-gp-1.0.0-2.i586.rpm TL11S/x86_32/turboadconnector-netlogon-1.0.0-2.i586.rpm
	Turbolinux 11 Server 64bit	TL11S/x86_64/turboadconnector-1.0.0-2.x86_64.rpm TL11S/x86_64/turboadconnector-gp-1.0.0-2.x86_64.rpm TL11S/x86_64/turboadconnector-netlogon-1.0.0-2.x86_64.rpm
	RHEL 5 32bit	RHEL5.2/x86_32/turboadconnector-1.0.0-2.i586.rpm RHEL5.2/x86_32/turboadconnector-gp-1.0.0-2.i586.rpm
	CentOS 5 32bit	RHEL5.2/x86_32/turboadconnector-netlogon-1.0.0-2.i586.rpm
	RHEL 5 64bit	RHEL5.2/x86_64/turboadconnector-1.0.0-2.x86_64.rpm RHEL5.2/x86_64/turboadconnector-gp-1.0.0-2.x86_64.rpm
	CentOS 5 64bit	RHEL5.2/x86_64/turboadconnector-netlogon-1.0.0-2.x86_64.rpm

2.3 設定に必要な情報の確認

以下のリストの各項目を確認し“設定値”欄にメモをとるなど環境についてあらかじめ整理しておくこと作業がスムーズに進みます。①②③④⑤⑦はシステム管理者に確認してください。

番号	項目	設定値	例	説明
①	レルム名		TARGETREALM.COM	ドメイン名
②	KDC		kdc.targetrealm.com	通常はドメインコントローラ ※バックアップドメインコントローラが存在する場合はすべて記載してください。
	KDC		kdc2.targetrealm.com	
③	レルムの管理サーバー		kdc.targetrealm.com	レルムの管理サーバー
④	DNSサーバー		192.168.0.1	ドメインのネームサーバーのIPアドレス
⑤	ドメインのNETBIOS名		TARGETREALM	Windowsサーバーの管理ツール“Active Directoryドメインと信頼関係”を開き、ドメイン名の上で右クリックしメニューから“プロパティ”を選択します。“ドメイン名 (Windows 2000 以前): ”の部分に表示されているのがNETBIOS名になります。
⑥	DNSのレルム名		targetrealm.com	Windowsサーバーの管理ツール“DNSマネージャ”を開きエントリを確認してください。
⑦	シリアル番号		1234-123456-123456	製品に付属している16桁の番号です。



以降の説明○数字部分には、リスト内の該当項目の値を設定してください。

第3章 Turbo ID AIO 管理コンソール

3.1 概要

Turbo ID AIO 管理コンソールは、Microsoft Windows サーバーを管理するためのソフトウェアです。Windows 管理端末または、Windows サーバー上で動作します。

3.2 Turbo ID AIO 管理コンソールのインストール



Turbo ID AIO 管理コンソールを動作させるには Microsoft .NET Framework Version 2.0 が必要です。あらかじめインストールを完了しておいてください。

以下よりダウンロードが可能です。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=0856each-4362-4b0d-8edd-aab15c5e04f5&displaylang=en>

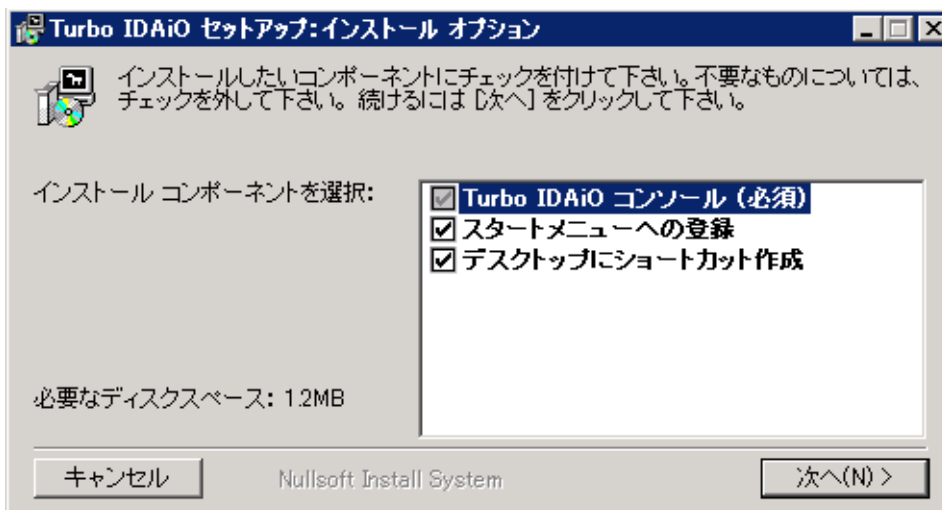


ActiveDirectory のレルム名 (ドメイン名) に "_" (アンダースコア) を含む場合、Linux Connector for Active Directory の Linux クライアントが参加 (Join) する際、正常に DNS への登録が行われません。レルム名には、 "_" (アンダースコア) を含めないようにしてください。

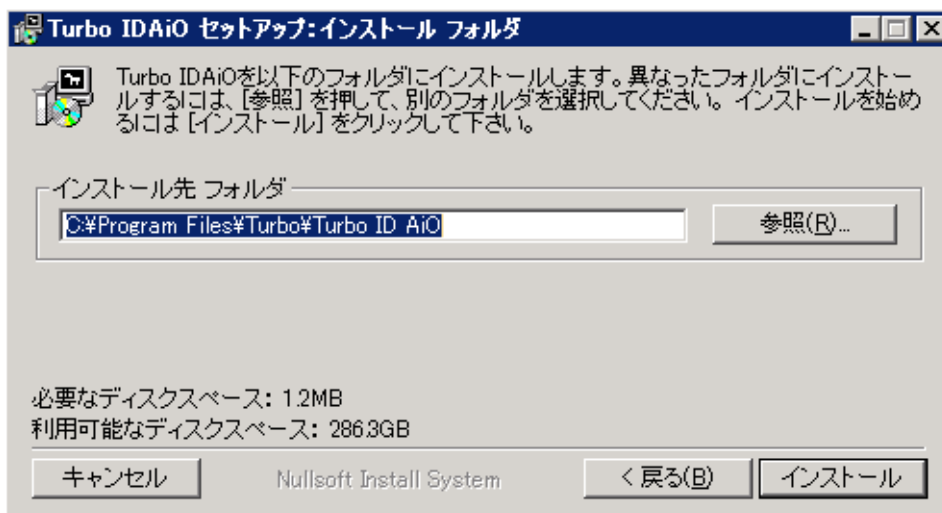
1. Windows システムに管理者権限でログオンし Linux Connector for Active Directory CD-ROM の win32 フォルダにある Turbo ID AIO 管理コンソールのインストーラを解凍します。
2. インストーラ turboIDAiOSetup.exe をダブルクリックし実行します。
3. 次の画面が表示されます。プルダウンリストから言語を選択し [OK] ボタンをクリックします。



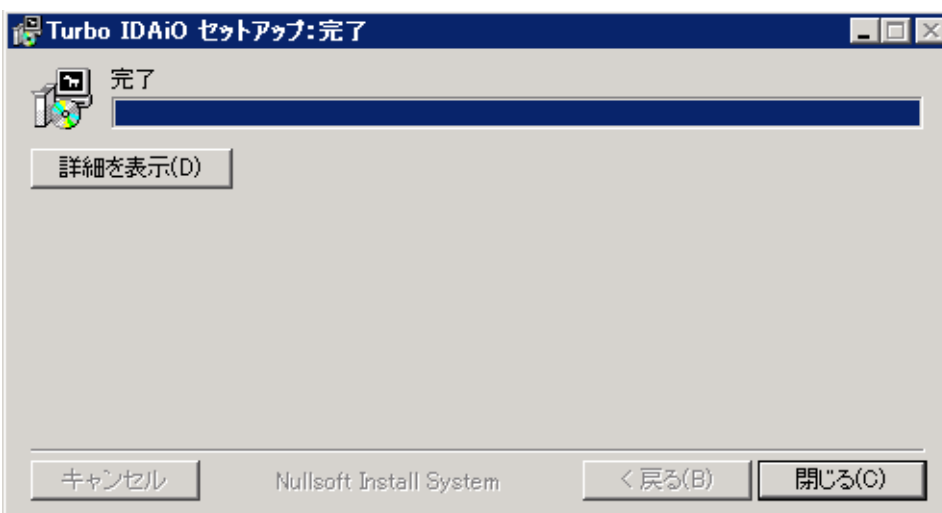
4. 次の画面が表示されたらスタートメニューへの登録およびデスクトップにショートカット作成を行うかどうかを選択し [次へ] ボタンをクリックしてください。



5. 次の画面が表示されたらインストール先のフォルダを選択し[インストール]ボタンをクリックしてください。変更する場合、[参照]ボタンをクリックしフォルダを選択することができます。



6. 次の画面が表示されたらインストールは完了です。[閉じる]ボタンをクリックしてください。[詳細を表示]ボタンをクリックし詳細を確認することができます。



インストールは以上で完了です。続いて「[3.2.1.起動と初期設定](#)」を参照し必要な設定を行ってください。

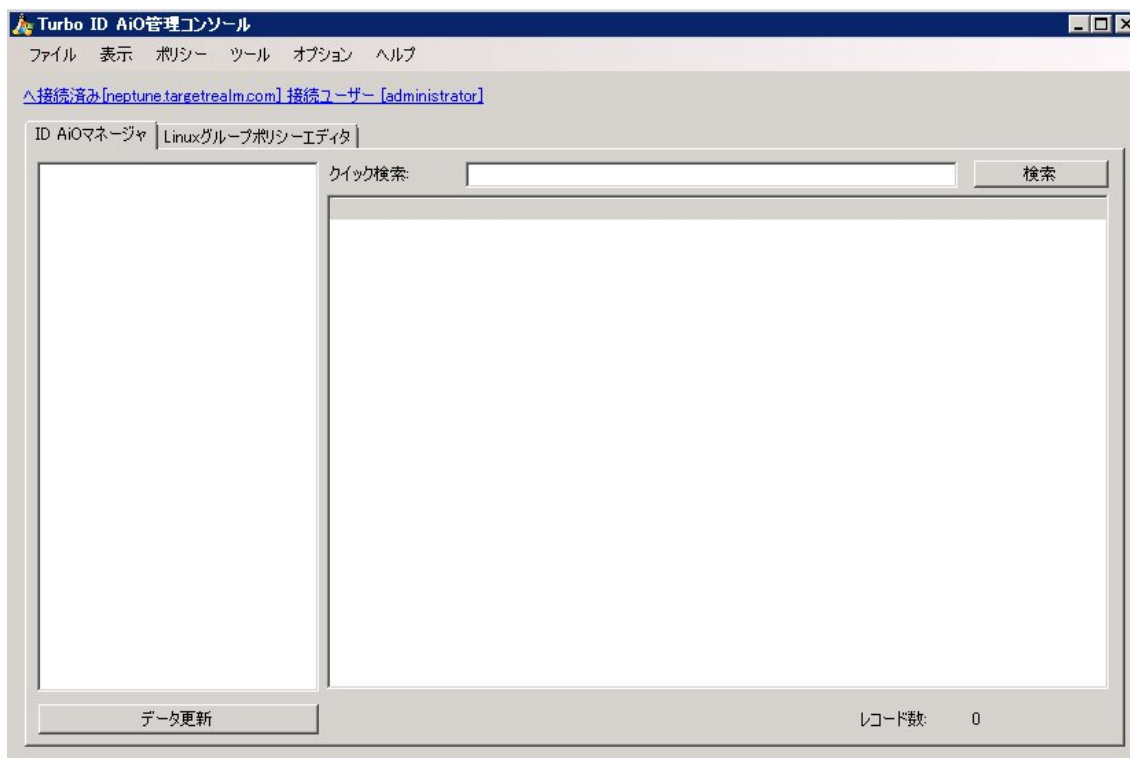
3.2.1 起動と初期設定

Turbo ID AIO 管理コンソールを起動し、次の手順に従って初期設定を完了してください。ここでは最低限必要な設定のみを解説しています。詳細は「Linux Connector for Active Directory ユーザーガイド」を参照してください。

Turbo ID AIO 管理コンソールの起動



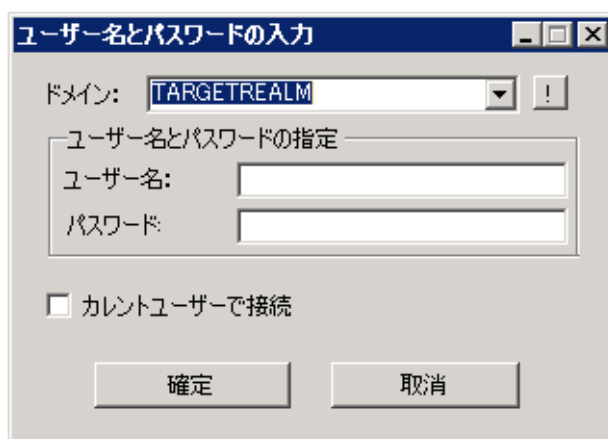
デスクトップの Turbo ID AIO アイコンをダブルクリックスタートメニュー -> “すべてのプログラム” -> “turbo” -> “Turbo ID AIO” -> “Turbo ID AIO administrative console” をクリックし Turbo ID AIO 管理コンソールを起動します。以下のメイン画面が表示されます。




ActiveDirectory へ接続

起動画面上部、メニューバーの下に “接続済み[ドメイン名] 接続ユーザー[ユーザー名]” のように表示されている場合、[ドメイン名]ドメインへ[ユーザー名]のユーザーで接続しています。

“クリックでドメインへ接続” と表示されている場合や異なるドメインに接続する場合は、ここをクリックし次のダイアログを表示します。



“ドメイン”プルダウンリストからドメイン名を選択します。 をクリックするとフォレストのドメインリストを更新します。接続するユーザーを選択し[確定]ボタンをクリックします。“カレントユーザーで接続”を選択した場合、現在の認証済みユーザーとして接続します。

ActiveDirectory スキーマ拡張機能の配置

初回起動時にはアクティブディレクトリのスキーマを拡張する必要があります。メニューバー“ツール”->“配置”をクリックし、「アクティブディレクトリスキーマ拡張機能の配置」画面で[チェック]ボタンをクリックします。次のように表示されたら[配置]ボタンをクリックし配置を完了します。“状態”欄に“終了”と表示され緑色の文字に変われば成功です。[閉じる]ボタンをクリックして終了してください。



一度拡張したスキーマを元に戻すことはできません。ご注意ください。

ID Aio ユニットの作成

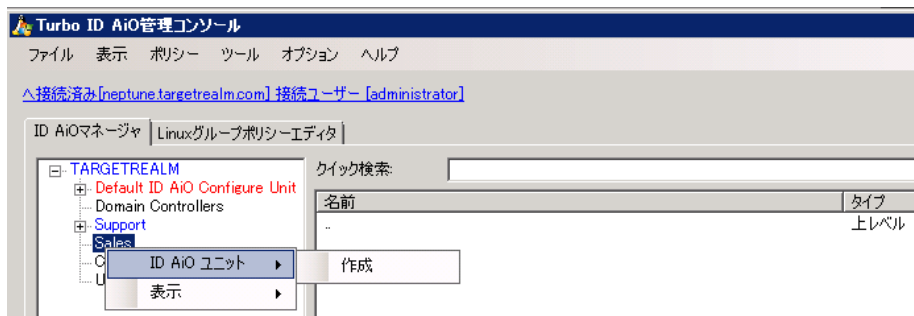
メニューバーの“表示” -> “標準表示”を選択します。ツリー表示されたら ツリーのルートで右クリックしメニューから “ID AIO ユニット” -> “作成” を選択します。



次のように Default ID Aio Configure Unit が作成されます。



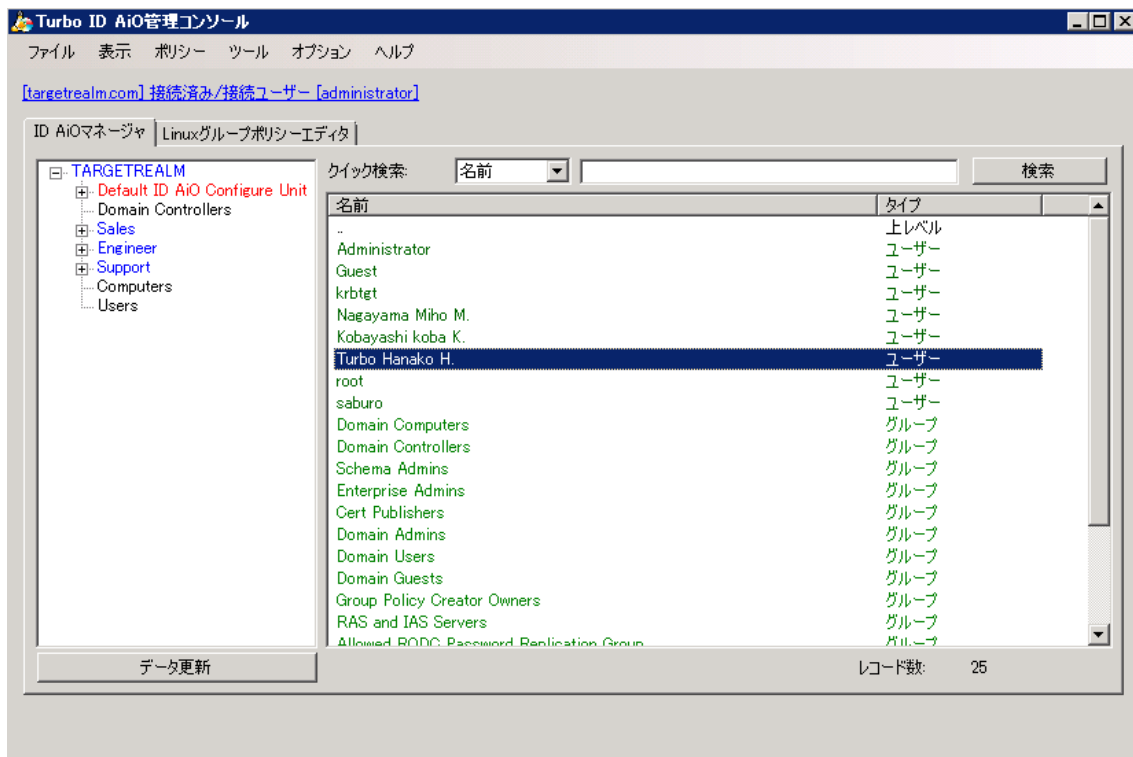
同様に必要に応じて OU (組織) 単位の IOAio ユニットも作成します。OU 上で右クリックしメニューから “ID Aio ユニット” -> “作成” を選択します。



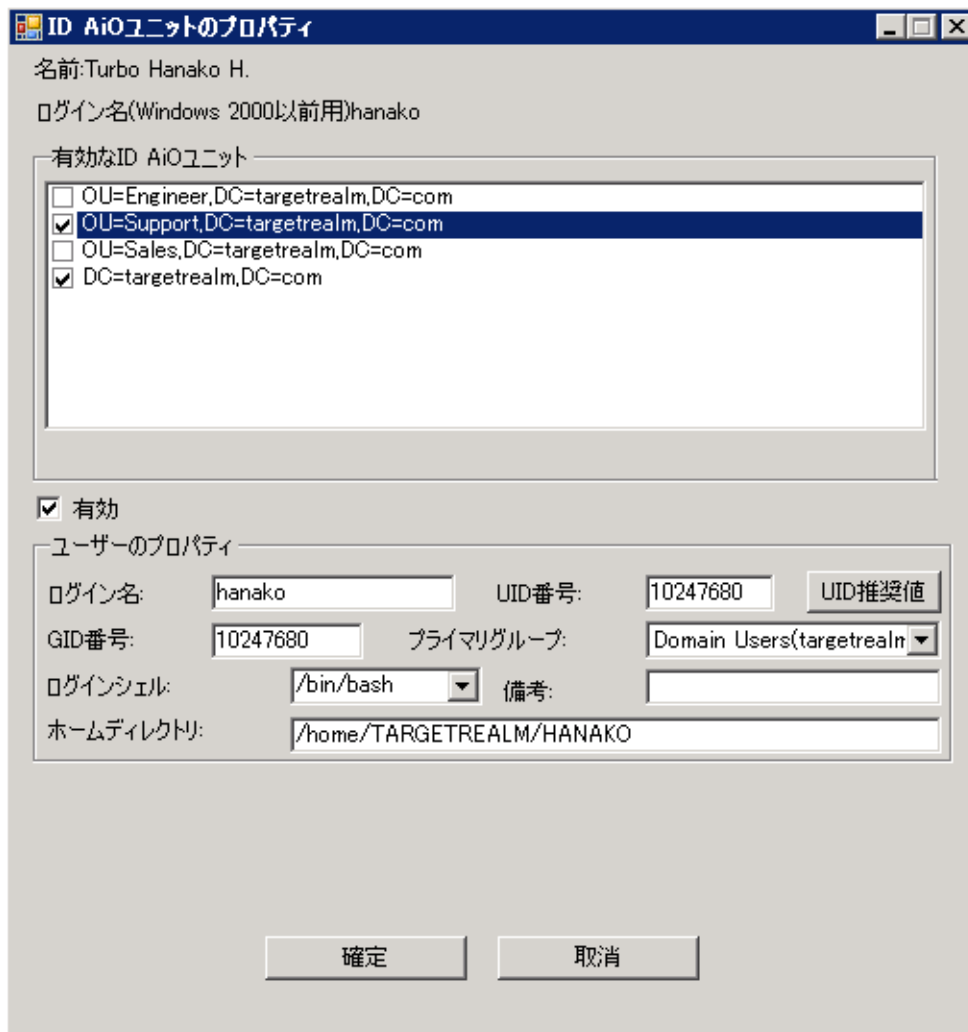
ID Aio ユニットの作成が完了した組織は 青色で表示され、サブディレクトリに Turbo ID Aio が作成されます。

ID Aio ユニットへのユーザー/グループの追加

メニューバーの“表示”->“標準表示”を選択し左側のウィンドウから対象のドメインの“Users”をクリックします。以下の例のように 作成したユーザーが表示されます。



ユーザーを右クリックし、メニューから“プロパティ”を選択します。以下の「ID Aio ユニットのプロパティ」が表示されたら“有効な ID Aio ユニット”欄を選択し、“有効”チェックボックスを選択します。ユーザーのプロパティの各項目を設定したら[確定]ボタンをクリックします。有効にしたユーザーが ID Aio ユニットの Users として表示されます。



IDAio ユニットの Users 上で右クリックメニューから“追加”を選択した場合、「Windows ユーザー、グループ、コンピュータを検索」画面が表示され、Windows ユーザー名の一部や全部を入力し検索結果を追加することも可能です。詳細は「Linux Connector for Active Directory ユーザーガイド」を参照してください。

第4章 Linux Connector for Active Directory

Linux Connector for Active Directory は、Linux コンピュータがドメインのメンバーとして JOIN し、ユーザーが ActiveDirectory の認証を使用しログインするための機能を提供します。また、本ソフトウェアの利用に必要なライセンス登録も行います。

4.1 インストールの準備

4.1.1 追加パッケージのインストール

Linux ディストリビューションのインストールタイプ(インストールするパッケージの組合わせ)によっては追加でパッケージのインストールが必要になる場合があります。環境に合わせてパッケージを追加インストールしてください。



Linux Connector for Active Directory の RPM パッケージを rpm コマンドでインストールした際、パッケージの依存関係が確認され、不足している RPM パッケージがあるとエラーメッセージとともにリストされます。

● Turbolinux 11 Server

Turbolinux 11 Server をインストールタイプ “標準サーバー” でインストールしている場合、UserInterface/X グループのパッケージや ORBit2、GConf2 パッケージをアップデートサーバーまたはインストール CD / オプション CD よりインストールしてください。GUI の設定ツールを利用する場合は、XOrg 関連のパッケージも追加インストールしてください。

● Turbolinux Client 2008

Turbolinux Client 2008 の場合、ハードディスクドライブへのインストール後、cups を Yum のリポジトリサーバーまたは Turbolinux Client 2008 Full Disk Package の LiveDVD よりインストールしてください。



パッケージ管理について詳細は、OS ごとの オンラインマニュアル (<http://www.turbolinux.co.jp/support/document/manual/>) を参照してください。

4.1.2 システム時刻の確認と同期

ActiveDirectory では認証にケルベロスを採用しています。ケルベロスを利用するにはクライアント側の PC (プリンシパル) と KDC (ドメインコントローラ) との時刻差が大きいとサービスを受けることができません。Windows サーバーとクライアントの時間差が大きくないかを事前に確認し、必要な場合は同期をとるよう調整してください。また、運用時には NTP システムを導入するか、定期的にシステム時間を確認、調整する必要があります。

4.2 インストール

Linux コンピュータに root でログインをするか、ログイン後に root ユーザーになります。

```
ログイン: root
パスワード: <- root のパスワードを入力
#
```

Linux Connector for Active Directory の CD-ROM をマウントし、ご利用のディストリビューション用の 3 つの RPM パッケージをインストールします。次は Turbolinux 11 Server 32bit 版の場合の例です。

```
# mount /mnt/cdrom
# cd /mnt/cdrom/TL11S/x86_32/
# ls
turboadconnector-1.0.0-2.i586.rpm
turboadconnector-gp-1.0.0-2.i586.rpm
turboadconnector-netlogon-1.0.0-2.i586.rpm
```



ディストリビューションごとに RPM パッケージが異なります。格納されているディレクトリは「[2.2.ソフトウェアの確認](#)」を参照し、必ずご利用になる環境に合った RPM パッケージを指定してください。



パッケージ名の 1.0.0-2 の部分はバージョン番号、i586 の部分はアーキテクチャです。ご利用環境に合わせて適宜読み替えてください。



RPM パッケージをインストールすると /etc/pam.d/system-auth、/etc/openldap/ldap.conf、/etc/nsswitch.conf を自動的に更新します。あらかじめバックアップを作成してください。

コンソールから root ユーザーで次のように実行します。

```
# rpm -ivh turboadconnector-1.0.0-2.i586.rpm ¥
turboadconnector-netlogon-1.0.0-2.i586.rpm ¥
turboadconnector-gp-1.0.0-2.i586.rpm

準備中... ##### [100%]
 1:turboadconnector ##### [ 33%]
 2:turboadconnector-netlogon##### [ 67%]
 3:turboadconnector-gp ##### [100%]
```

アンマウントし CD-ROM は取り出してください。

```
# cd
# umount /mnt/cdrom
# eject
```



ディストリビューションごとに RPM パッケージが異なります。ご利用環境に合わせて適宜読み替えてください。

インストールは完了です。続いて「[3.3.初期設定](#)」を参照し必要な設定を行ってください。

4.3 設定ファイルの編集

/etc/krb5.conf ファイルの編集

ケルベロスの設定ファイル /etc/krb5.conf ファイルにレルム名 (realm) を指定します。ActiveDirectory では、レルム名としてドメイン名を使用します。

root ユーザーでエディタを起動し、[realms] セクションおよび [domain_realm] セクションを以下例の**太字**部分のように環境に合わせて指定します。以下の○数字部分は「[2.3.設定に必要な情報の確認](#)」のリスト内の値を入力してください。

```
[realms]
TARGETREALM.COM = {
  kdc = kdc.targetrealm.com:88
  kdc = kdc2.targetrealm.com:88
  admin_server = kdc.targetrealm.com:749
}

[domain_realm]
targetrealm.com = TARGETREALM.COM
.targetrealm.com = TARGETREALM.COM
```

[realms] セクションの 1 行目 **TARGETREALM.COM** の部分には、ターゲットとなるケルベロスのレルム名 (ActiveDirectory のドメイン名①) を必ず大文字で入力します。2 行目の kdc= にはケルベロス認証を行う KDC のホスト (ドメインコントローラ②) を指定します。ActiveDirectory にバックアップドメインコントローラが存在する場合、kdc 行を複数記述しておきますと指定順に使用されます。障害発生時などに有効です。例では **kdc.targetrealm.com:88** と **kdc2.targetrealm.com:88** となっています。3 行目の admin_server= にはレルムの管理サーバー (③) を指定します。例では **kdc.targetrealm.com:749** となっています。

[domain_realm] セクションには DNS のドメイン名 (⑥) とケルベロスのレルム名 (①) とのマッピングを指定します。ActiveDirectory の場合、**TARGETREALM.COM** の例のようにドメイン名の大文字指定がレルム名となります。

/etc/resolv.conf ファイルの編集

/etc/resolv.conf に Windows ドメインで使用している適切なネームサーバー (④) が指定されていることを確認します。必要に応じて、root でエディタを起動し、以下の**太字**部分を修正してください。

```
nameserver 192.168.0.1
```



Windows ネットワークで使用する DNS が不明な場合はシステム管理者にお問い合わせください。DHCP でネットワークに関する設定を行っている場合にも取得したネームサーバーのアドレスが適切であることを確認しておいてください。

/etc/turboadc/config.xml ファイルの編集

/etc/turboadc/config.xml ファイルを編集しレルム名を指定します。

root でエディタを起動し、以下の**太字**部分のようにレルム名を指定します。<realm> から </realm> までの <realm> セクションに各レルムを指定します。<fqdn> セクションには Windows ドメインの FQDN (①) を大文

字で指定します。〈netbiosname〉セクションには Windows ドメインの NETBIOS (⑤)での名前を大文字で指定します。いずれもホスト名ではなくドメイン名なので注意してください。また、〈IDAiOTech〉セクションには、アクティブディレクトリに統合されたデータベース、ID AiO を使用するかどうかを指定します。使用する場合には 1 を指定します。

```
<realm>
  <fqdn>TARGETREALM.COM</fqdn>
  <netbiosname>TARGETREALM</netbiosname>
  <IDAiOTech>1</IDAiOTech>
</realm>
```



GUI ツールで /etc/turboadc/config.xml の設定を実行するには、X 上で root ユーザーになって /usr/sbin/adjoin_gui コマンドを実行するか、root でログインし、K メニュー → "インターネット" → "アクティブディレクトリ接続" (Turbolinux Client 2008 の場合) / Start メニュー → "ネットワーク" → "アクティブディレクトリ接続" (Turbolinux 11 Server の場合) を選択します。詳細は「Linux Connector for Active Directory ユーザーガイド」を参照ください。

4.4 シリアル登録

クライアントの NETBIOS 名と Linux Connector for Active Directory 製品に付属のシリアル番号を使用して製品使用のための登録を行います。利用を開始するには必ず実行しなければなりません。

4.4.1 adjoin_cli コマンドによる登録



認証サーバーへ接続する必要があるため上記手順はインターネットへ接続が可能な環境で実行してください。外部ネットワークへの接続ができない環境の場合は、「[4.4.2.ライセンスファイルの適用](#)」を参照し手動でライセンスファイルを適用します。

root ユーザーでコンソールから次のように実行します。

はじめにクライアントマシンの NETBIOS 名を指定してください (例では kevin)。続いて製品に同梱されているシリアル番号を入力してください。シリアル番号はハイフン (-) を含めます (例では 1234-123456-123456)。最後にレジストサーバーを入力します。通常はそのまま [Enter] キーを押してください。

```
# adjoin_cli -x
Please input machine's netbios name: kevin
Please input serial number(for example: XXXX-XXXXXX-XXXXXX):<- 1234-123456-123456
Please input register server[auth.turbolinux.co.jp]: <- そのまま [Enter] キー
Register is running. Please wait a moment.
Register correct. Please enjoy turbo adbnd.
```

Regisrer correct と表示されれば成功です。



GUI ツールで上記を実行するには、X 上で root ユーザーになって /usr/sbin/adjoin_gui コマンドを実行するか、root でログインし、K メニュー → "インターネット" → "アクティブディレクトリ接続" (Turbolinux Client 2008 の場合) / Start メニュー → "ネットワーク" → "アクティブディレクトリ接続" (Turbolinux 11 Server の場合) を選択します。詳細は「Linux Connector for Active Directory ユーザーガイド」を参照ください。

4.4.2 ライセンスファイルの適用

外部ネットワークへの接続ができない環境の場合は、手動でライセンスファイルを適用します。「[4.4.1.adjoin_cli コマンドによる登録](#)」を行える場合には、ここでの操作は必要ありません。

以下項目を明記し、メールにてライセンスファイルを申請してください。

- 製品付属のシリアル番号(ソフトウェア使用許諾契約書に記載)
- 使用する全ての NETBIOS 名

申請先メールアドレスは「Linux Connector for Active Directory サポートガイド」6 ページ “●E-mail 送信先” をご確認ください。ライセンスファイルをメールにてお届けしますので記載内容にそって手動で適用してください。

4.5 ドメインへ JOIN

Linux システムをドメインに参加 (JOIN) させます。root ユーザーで次のように実行します。

```
# adjoin_cli -j
Configured Realms List:
0 - TARGETREALM
1 - WINDOWS2008J
```

TARGETREALM や IINDOWS2008J の部分は実際に指定されているレルム名 (ドメイン名) が表示されます。次のように表示されたらレルム名の前の番号を入力し JOIN 先ドメインを指定します。

```
Choose which realm to use by id:0
```

続いて administrator のパスワードを入力します。

```
TARGETREALM is chosen
administrator's password: <-パスワードを入力
```

次のように表示されればドメインへの JOIN と DNS サーバーへの登録は成功です。

```
joining domain is a success, also registering dns
successfully registered dns
Please restart adbind service
```



GUI ツールで上記を実行するには、X 上で root ユーザーになって /usr/sbin/adjoin_gui コマンドを実行するか、root でログインし、K メニュー → “インターネット” → “アクティブディレクトリ接続” (Turbolinux Client 2008 の場合) / Start メニュー → “ネットワーク” → “アクティブディレクトリ接続” (Turbolinux 11 Server の場合) を選択します。詳細は「Linux Connector for Active Directory ユーザーガイド」を参照ください。

4.6 サービスの起動と設定

次のように実行し、adbind サービスを起動します。サービスを起動するには root ユーザーで次のように実行します。

```
# /etc/init.d/adbind start
Starting adbindd services: adbindd version 1.0.0 started.
Copyright The Turboadc Team 2009
```

OK

